



広安里 第11号

発行 釜山日本人学校
釜山広域市水営区民樂路 19 番道 11
TEL 051-753-4166
FAX 051-756-4851
<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>

本年度も大変お世話になりました

本年度の「広安里」は本号をもって、最終号となります。本校の教育活動におきまして、保護者の皆様、日本人会の皆様をはじめ、多くの方々のご理解とご協力、ご支援のおかげで1年間を無事に終えることができました。この紙面上を借りて、厚くお礼を申し上げます。大変ありがとうございました。引き続き、4月より平成26年度がスタートしますので、25年度同様によりしくお願いします。



離任職員より

「心に残る充実した教師生活最後の3年間！！」

政木 恵美子

児童生徒の皆さん、保護者の皆様そして学校運営委員会をはじめ日本人会の皆様3年間大変お世話になりました。教師生活最後の3年間を釜山日本人学校で過ごすことができましたこと心より感謝申し上げます。

赴任した翌日、あの東日本大震災が起こり、韓国政府による百名にのぼる救援隊の派遣、諸団体からは義援金、毛布や水などの物資の送付、本校と交流をしている民楽初等学校での募金活動、「慶州ナザレ園」でもおばあさんたちが少ないお小遣いを出し合い義援金として日本に送られたとのこと、さまざまな場で「隣国日本への思い」、「祖国日本への思い」を感じたことも、つい先日のように思い出されます。

その思いは、今も PTA バザーでの桜もち・焼きそばの売上金をメッセージを添えて被災者へ義援金として送り続けていることに繋がっています。そして、たくさん子どもたちが、1年間の中で心に残った行事に PTA バザーをあげていることがうれしいかぎりです。

学校は、確かな学力を身に付けるところであり、それと同じように豊かな心を育てるところです。これまでの海外生活を通して、ますます国際化が進む社会で活躍できる人になるためには、豊かな心をもつことがとても重要だと痛感しています。

本校で、子どもたちから「みんなの笑顔のために働こうとする素晴らしい心」をいただき、また、保護者や諸団体の皆様から「温かいご支援とエール」をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。

今後も子どもたちや皆様が、元気で活躍されますよう、心よりお祈り申し上げます。

「みなさんに出会えて本当に幸せでした！！」

小倉 悠子

松尾芭蕉の俳句に「鮎の子の 白魚送る 別れかな」という句があります。白魚は、産卵のため旧暦の2月頃に川を上ります。その一月後に、鮎もまた川を上ります。蕉は自分を白魚に、門弟たちを鮎に見立てて読んだ句だということです。

これまでの2年間は、帰国された先生方や帰国した子どもたち、保護者の皆さんを見送って来ました。皆さんが築き守ってきた釜山日本人学校の伝統を受け継ぎ、それを伝えて出て行くのだという思いを持って手を振ったように思います。出発を間近に控えた今、門弟に見送られる芭蕉の気分かということ、残念ながらそんな立派なものではありません。縁あってここ釜山日本人学校に赴任し、皆様に支えられながら3年間を過ごせたことは本当に幸せでした。

先日、ある生徒からこんなことを聞かれました。「先生3年間で一番楽しかったことは何ですか。」と。何だったろうとしばらく考えましたが、次々に思い浮かんできたのは、行事などのことではなく、子どもたちの顔でした。昼食時間に大笑いしたときの顔、授業中のわくわくした顔、発表や行事が成功してほっとしたときの顔、悩みを乗り越え「先生、もう大丈夫です。」と言いに来たときの顔。楽しかったことというよりは、そんな瞬間が思い浮かびました。たくさんすてきな瞬間をこの釜山日本人学校の子供たちと体験できたことが何より良い思い出として心に残っています。

これからも、釜山日本人学校が、キラキラした子どもたちの笑顔で溢れますように。そんな思いで、手を振って笑顔でお別れをしたいと思います。3年間本当にありがとうございました。

卒業を迎えた児童より

小学校生活を振り返ってみると、今年の一年間のことが特に心に残っています。なぜなら、今まで以上に、行事等でリーダーとして活動することが多かったからです。

去年までは、副リーダーだったので、私はリーダーに頼ってばかりでした。でも、今年はちょっと違いました。最高学年として、小学部を引っ張っていく機会がとても多かったです。特に、宿泊学習とPTAバザーでは、たくさんを経験しました。大変なこともありましたが、全てが貴重な体験だったと思っています。中学生になっても、この経験を生かし、自信をもってがんばりたいと思います。

釜山日本人学校では、日本ではなかなか学べない韓国の歴史を学ぶことができました。また、学校行事等を通して、周りの意見を聞きながらも、しっかりと自分の考えを持つことの大切さを学びました。特に、この一年間は、小学部のリーダーとして活動することが多かったので、このことをとても強く感じました。

中学生になれば、今まで経験したことのないようなことも体験し、また、新しいことを学ぶ機会も増えると思います。勉強面では、疑問に思ったことをそのままにせず、分かるまで取り組みたいと思います。そして、中学生として、自分の意見をきちんと伝えられるようになりたいです。

ぼくが6年生になって学んだことは、責任を持って行動することの大切さです。今までは、上級生の言うことを聞いて動いていましたが、今年は自分が指示を出す立場になり、準備をきちんとしていなければ指示をしっかりと出せないことがわかりました。また、運動会や宿泊学習の取り組みでは、下級生の前で話をするのも多かったです。自分の頭の中ではわかっているのに、うまく言葉に表せないことが多かったです。

中学生になると、今まで以上に学校のリーダーとして活動することが多くなると思います。今年の経験を生かし、責任を持って行動していきたいと思えます。

僕は、この一年間で宿泊学習が一番思い出に残っています。なぜかという、みんなと協力して良い思い出を作ることができたからです。

踊りの練習では、高学年が低学年にできるまで指導をしました。なかなか踊ることができなかった低学年が上手に踊れるようになったときは、とてもうれしかったです。また、最後のポーズについて一緒に話し合ったりもしました。みんなの意見をまとめるのは少し難しかったけど、いろいろなアイデアを取り入れたことで、よりよい踊りが完成できたので良かったです。中学生になったら、もっといろいろなことに挑戦し、いろいろな場面でリーダーシップを発揮していきたいです。

私は、この学校に来て、リーダーになる機会がとても増えました。日本の学校では、リーダーをすることはあまりありませんでしたが、この学校は6年生が少ないので、必ずどこかの場面でリーダーを経験しなければなりません。

宿泊学習では、中学生もいないので、6年生が小学部全体をまとめなければなりません。初めはとても苦労しました。大きい声で指示できなかったり、うまく指示が伝わらなかったりしてとても大変でした。私にとってリーダーをすることは、とても勇気のいることでした。でも、だんだん慣れ、いろいろなことに自信が持てるようになりました。だから、中学生になっても、この経験を生かし、自信をもって頑張っていきたいです。

釜山日本人学校では、毎朝先生方とハイタッチをしてから教室に向かいます。最初はなんでこんなことをするのだろうと思っていましたが、ハイタッチをすると、お互いにコミュニケーションがとれることがわかりました。また、先生方の笑顔からは元気をもらうことができます。そして、今日も一日頑張ろうと思うことができます。だから、あいさつを笑顔ですることはとても大事なことだということを実感しています。

中学生になったら、いろいろ疲れてしまうこともあるとは思いますが、朝のハイタッチで吹き飛ばしながら生活していこうと思います。